

「鉄鋼業における地球温暖化対策の取り組み」に対する意見

国立環境研究所 森口祐一

1. 自主行動計画における目標の解釈

「粗鋼生産量1億トンを前提として」いるが、仮に生産量がこの値と大きく異なった場合、目標が達成されたかどうかをどのような方法で評価することを想定しているか。資料 p6 において、「粗鋼生産量の異なる年同士では単にエネルギー消費を粗鋼生産で除しただけの単純エネルギー原単位による比較はできない。」とされているが、補正を加えた「エネルギー原単位指数」を適用することが想定されているのか。この指数の具体的な算定方法は公表されているか。

2. CO2 排出量ではなくエネルギー消費量で目標が設定されていることについて

鉄鋼業のエネルギー源のほとんどが石炭であり、大幅な燃料転換が想定しにくいことからこのような設定とされていると思われるが、ここでいう「エネルギー消費量」はどのような断面で集計したものか。例えば、原料炭→コークス→高炉ガスという転換過程では、どの断面をエネルギー消費量として計上しているのか。端的に言えば、エネルギー消費量の集計方法は、CO2 排出量とほぼ比例するような集計方法となっているか。鉄鋼業では副生ガスの発生、利用が複雑に行われており、かつ、発電部門への外販等も行われているなど、「エネルギー消費量」の定義は容易には理解し難いと思われるが、エネルギー消費量という集計値だけでなく、その計算の内訳も報告される予定となっているか。

3. バウンダリーの調整について

上記2. と関連するが、例えば共同火力との間でのバウンダリーの調整を行うにあたって、エネルギー消費量で目標を立てていることと齟齬をきたすことはないか。